

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0873700454		
法人名	有限会社 松本薬局		
事業所名	高齢者グループホーム ひまわり		
所在地	茨城県行方市玉造甲4 2 2 (電 話) 0299-35-6012		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1 9 1 8 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年2月24日	評価確定日	平成21年6月19日

【情報提供票より】 (平成21年1月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月6日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算	8.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	300 円	昼食 550 円
	夕食	530 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成21年1月16日現在)

利用者人数	8 名	男性 3 名	女性 5 名
要介護1	0	要介護2	0
要介護3	4	要介護4	3
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 85 歳	最低 73 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	金塚医院、井坂歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は利用者をいたわり、一人ひとりが心豊かにその人らしい生活ができるよう優しさをもって支援している。
 管理者と全職員は地域との交流を大切にするとともに専門職としての知識と技術を磨き、家族等と共に利用者の生活を支援している。
 運営者や全職員で認知症の利用者の人格を尊重したサービスの提供に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 市の関係機関と連携を図るまでには至っていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価での課題や気づきを全職員で話し合い、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は市職員や民生委員、老人会会長、家族の代表、ホーム主任、管理者、デイサービス管理者、事業所の代表で2ヶ月に1回開催し、会議で出た意見をサービスの質の向上に活かしている。 市と密に連携を図るまでには至っていないので、介護相談員を受け入れるなど更なる連携を期待する。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の代表が運営推進会議に参加し、要望や苦情を話し合っている。 家族の訪問時に意見や要望を聴くとともに重要事項説明書に第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。 要望を言い出しにくい家族の気持ちに考慮して無記名のアンケートを実施するなどの工夫をし、運営に活かすことを期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の老人会と利用者との合同運動会を行うなどで地域の人々と交流している。 隣接するデイサービスの利用者とは交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の人格を尊重し、地域との交流を大切にして日々の暮らしを支えるサービスを理念として玄関に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念と目的や運営方針を重要事項説明書に明記するとともに、管理者と全職員で実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会と利用者との合同運動会を行うなどで地域の人々と交流している。 隣接するデイサービスの利用者とは交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価での課題や気づきを全職員で話し合い、サービスの質の向上に活かしているが、外部評価の意義の理解は管理者と計画作成担当者までで全職員が理解するまでには至っていない。	○	管理者と計画作成担当者を含めた全職員で外部評価の意義の理解を深め、更に自己評価や外部評価をサービスの質の向上に活かすことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市職員や民生委員、老人会会長、家族の代表、ホーム主任、管理者、デイサービス管理者、事業所の代表で2ヶ月に1回開催し、会議で出た意見をサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者が参加しているが、十分に連携するまでには至っていない。	○	介護相談員の受け入れや市関係者と運営課題などを話し合い更なる連携を期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時にホームでの暮らしぶりを報告するとともに、訪問の少ない家族には毎月の請求書と一緒に「ひまわりだより」や日々の暮らしぶりを要約した手紙、預かり金の収支を同封し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の代表が運営推進会議に参加し、要望や苦情を話し合っている。 家族の訪問時に意見や要望を聴くとともに重要事項説明書に第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。	○	要望を出しにくい家族の気持ちに考慮して無記名のアンケートを実施するなどの工夫をし、運営に活かすことを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定年による退職の場合は前もって家族に報告をするとともに利用者にも挨拶をしている。 急な退職の場合は他の馴染みの職員が対応して利用者のダメージを最小限に抑えるよう努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は採用時の内部研修を受けている。管理者は職員の希望や段階に応じて研修を受けられるよう計画している。また、職員は働きながら積極的に資格を取得している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	茨城県グループホーム協議会に加入するとともに、近隣の他事業所との相互訪問を行い、管理者や職員が交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と一緒に見学をしてもらい、納得したうえで利用の開始を勧めている。併設のデイサービスから馴染んだ環境の中にあるホームへスムーズに移った利用者もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はセンター方式による生活歴の把握から自家菜園で利用者から野菜作りを教えてもらったり、楽しかった昔の思い出話を聞くなど、一緒に過ごし支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今年度からセンター方式を採用し、利用者一人ひとりの思いや意向を汲み取り、利用者本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いやアセスメントの結果を職員で話し合い、介護支援専門員が介護計画を作成しているが、家族の意向を十分に確認するまでには至っていない。	○	利用者や家族の意向を反映した介護計画を作成するとともに家族から確認印を得ることを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	管理者と職員の話し合いで6ヶ月に1回介護計画を見直している。 また、利用者の状態に変化が生じた場合は状況に即した介護計画に見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設デイサービスとの連携により一般浴が困難な利用者は機械浴で支援している。 栄養士による栄養管理や薬剤師による服薬管理を適切にしている。 希望にそって通院や買物の支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な通院と状況に応じたかかりつけ医への受診を支援するとともに利用者の状況を職員が医師に説明している。 5 km以上の付き添いには一時間千円の利用料が必要なことを重要事項説明書に明記している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常勤の看護師がいないため重度化や終末期の対応を地域の訪問看護ステーションと話し合っているが、看取りを実施する体制までには至っていない。	○	主治医や医療機関と連携を図りながら、全職員で話し合い終末期マニュアルを作成するなど方針を共有するとともに看取りに取り組むことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のトイレ支援はさりげなく声掛けをしている。 着替えやオムツ交換は必ず居室に移り、プライバシーに配慮した対応をしている。 個人情報の取り扱いには注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は一人ひとりの生活歴を把握し、その人のペースに合わせて過ごせるように支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや配膳など利用者ができる食事の準備をしている。 食事前に嚙下体操をするとともに利用者と職員と一緒に食卓を囲み楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状態により隣接するデイサービスの入浴設備を利用している。 職員の多い午前中の中の入浴が多くなっているが利用者の希望にそって支援している。 入浴拒否の利用者には無理強いせずタイミングをみて入浴の支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は畑の野菜の手入れや朝夕のカーテンの開閉、廊下の掃除、洗濯物たたみなどの役割を担い張りのある生活をしている。 ホームは犬を飼い、利用者の癒しになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑の手入れや草取りをしたり、天気の良い時は散歩に出かけるなどホームに閉じこもらないように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者をさりげなく見守り、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。 利用者が外に出た場合は、職員が付き添うなど安全面に配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の避難訓練は消防署の指導と地元消防団の協力を得て実施している。 毎回、発生時間と場所を設定して訓練している。 夜間の想定では夜勤者は一人であり、困難さが浮き彫りになった。	○	運営推進会議などを活用して地域の人々の協力が得られるよう働きかけ、一緒に避難訓練を実施するとともに、災害に備えて非常食や飲料水を備蓄することを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は隣接するデイサービスで調理しているが、朝食と夕食はホームで栄養士のアドバイスを受けて調理している。 利用者と職員が食卓を囲み、食事の摂取量を確認をするとともに水分量は服薬時やお茶などで確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は広々としたフロアでゆったり過ごしている。 ソファに座ったり炬燵のある畳の部屋で過ごすなど思い思いに生活をしている 職員が見渡らせる部屋の配置になっており、安心して落ち着いた生活ができる空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と利用者の希望により使い慣れた家具を持ち込むなど利用者一人ひとりの居心地のよい部屋になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。